

補遺

一、自然災害の様子

一、香川県下の災害の様子

明治以前は、明治以後よりかなり大きい災害があったと思われるが、資料を見ても、人畜の死傷多数とか、五穀実らずとか、大旱魃であった、大飢饉であったなどという記録はあるが、災害の大小がはっきりしないものが多い。

その中で、藩政時代に本郡における飢饉の主なものとして、享保年間の飢饉が最も甚だしく、明和・天保・寛延・天明の飢饉がこれに次いでひどかったようである。特に享保年間（一七一六～一七三六）には、大風・洪水・旱魃・害虫の発生等が頻りに起こり、その上疫病が流行し、ひどい年は九州・四国・中国を中心に広範囲に大飢饉が起こっている。とりわけ享保十七、十八年は最もひどく、全国で餓死・病死した者が一七万人もあったといわれている。地震では、宝永四年・嘉永七年・安政六年に大地震があり、洪水では、慶応二年に大洪水があったとの記録がある。

一、自然災害の様子

一、自然災害の様子

県下の災害についてまとめた参考資料としては、「香川県気象史料」(香川県防災気象連絡会がまとめ、昭和四十二年四月に発行)に、大和時代の允恭天皇五年(四一六)の地震から、明治三十三年(一九〇〇)十二月七~十日の強風まで、全部で四五七回の災害(一部は特異気象)を記載してある。このうち江戸時代が三三三回(七三%)、明治時代が五九回(一三%)である。

「香川県気象災害誌」(高松地方気象台編・香川県防災気象連絡会発行・昭和四十一年三月刊)には、香川県内で近代的気象観測が始まった明治二十六年(一八九三)から、昭和四十年(一九六五)までの七三年間、三四九回の災害を記載している。

「香川県防災気象要覧」(高松気象台長日下部正雄編・昭和四十三年三月発行)には、県内に起こった災害について、各地の記録と資料の出所が記載してある。

これらから、明治二十六年以後の災害で顕著なもの、特に郷土に被害の大きかったものを抜き出すと、次のようである。

(1) 台風

- 明 27・9・11~12
- 〃 32・8・22
- 大 7・8・29~30、9・14
- 昭 9・9・21「室戸台風」

- 昭 13・9・5
- 〃 20・9・17~18「枕崎台風」
- 〃 29・9・25~26「15号(洞爺丸台風)」
- 〃 40・9・10「23号」、9・17「24号」
- 〃 45・8・20~21「10号」

(2) 大雨

- 昭 6・9・17~18
- 〃 21・5・9
- 〃 22・7・9「西讃地方豪雨」
- 〃 27・7・23
- 〃 29・6・29~30
- 〃 40・9・13~17

(3) 濃霧

- 昭 10・7・30
- 〃 30・5・11(紫雲丸沈没)
- 〃 38・4・16~19、5月「長雨・濃霧」

(4) 地震

- 昭 21・12・21「南海道地震」

(5) 旱天・早魃

- 明 26「大早魃」
- 〃 27「大早魃・凶荒年」

一、自然災害の様子

明 45(大元)「小早魃」

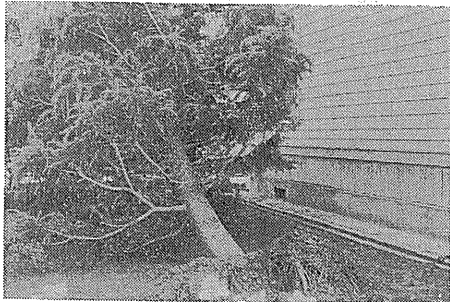
- 大 2「小早魃」
- 〃 13「大早魃」
- 昭 4「〃」
- 〃 8「小早魃」
- 〃 9「大早魃」
- 〃 14「〃」
- 〃 19「大早魃」
- 〃 42「小早魃」

(6) 寒波・強風・大雪

- 昭 38・1

(7) 長雨

- 昭 38・5
- 〃 45・5~6



台風10号による被害(昭45.8)

一、自然災害の様子

(8) 強風

大14・3・12「雷雨のあと暴風」

昭6・4・11~12

昭7・3・16

昭33・12・26~27

昭37・4・7

二 災害による被害のあらまし

1 台風被害が大きかったもの

(1) 明治二十七年(一八九四) 九月十一~十二日 和田尋常小学校の第三教室が倒れる(十一日)。台風の中は豊後水道から松山付近を経て、瀬戸内海を横断して米子付近から日本海へ抜けた。県下の雨量は、三〇~七〇ミリメートル、多度津の最大風速、西南西三〇・七メートルであった。当地方はそれよりも台風を中心に近く、地形上、強い山おろしの南風を受けて被害が大きかったと思われる。

(2) 明治三十二年(一八九九) 八月二十八日 県下で被害最大(県内で一〇〇人以上の死者を出す)。台風の中心は、高知県南西部に上陸し、一時間約八〇キロメートルの急速度で北東進し、三豊郡を経て二十一時三十分ごろ岡山県に再上陸した。被害の大部分は台風の中心の東、二〇~三〇キロメートルの香川県中部に多く、沿岸部より内陸部に集中した。県内の雨量二〇~五〇ミリメートル、多度津の最大風速、西三七・五メートルであったが、県下で一秒間の風速五二メートルに達した所があった。県下の被害は次のようであった。

① 死者三〇七人、 行方不明一〇人、 負傷者九五五人

② 家屋 全壊七、〇一五戸、 半壊四、二八六戸、 浸水六〇〇戸、 非住浸水五、〇〇三戸

③ 田冠水四五町、 畑流埋四一町、 畑冠水一五町

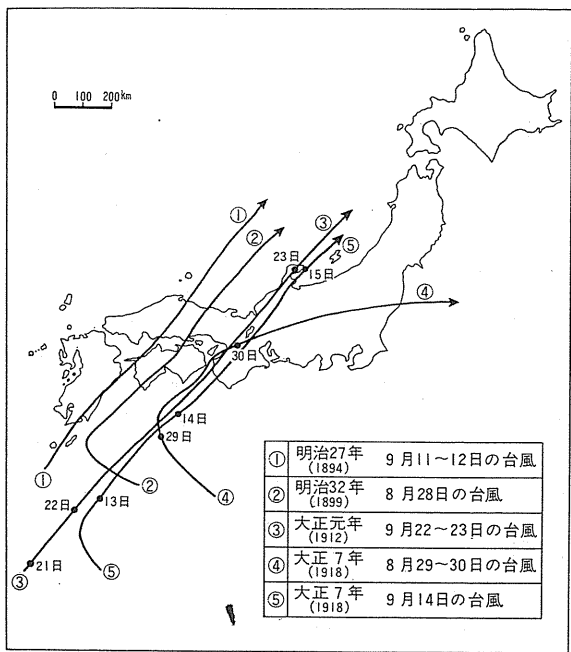
④ 道路損壊二一か所、 堤防決壊一四か所、 通信途絶八九か所、 橋流失五

⑤ 船 沈没一九隻、 流失三三隻、 破損八五隻 (3) 大正七年(一九一八) 八月と九月の台風

① 八月二十九~三十日(風水害) 台風の中心は紀伊水道を北上した。風は、小豆郡および木田郡以西、三豊郡北部に至る地域が最も強く雨は小豆郡南部が最も多く、小豆郡南部の被害甚大であった。

② 九月十四日(大洪水) 降雨時間は割合短かったのに雨量が多かったので、各河川は十四

1 香川県下に被害が大きかった台風の進路(明治・大正時代)

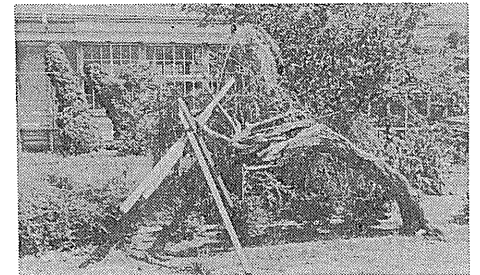


日午後急に増水して大洪水となった。新川・郷東川・綾川・土器川・金倉川・高瀬川・財田川等の沿岸地方は被害が特にひどかった。

一、自然災害の様子

2 大正7年の台風による被害

項目	8月29~30日	9月14日
死行方不明者	23人 3傷 11	17人 4傷 4
家屋 {全半流 壊壊失}	377戸 — 2	131戸 70 94
浸水家屋 {床下非住}	4,785戸 2	11,529戸
橋堤道 流決壊 防路損	12 196 —	74 226 112
田畑 {浸冠水 水水荒 水水陸}	(田冠水) 968町 —	(浸水) 1,141町 69
牛 庄 死	—	3頭
船舶 {沈破流 没損失}	33隻 69 —	—隻 — 19
県内の雨量	40~370 ^{mm}	40~350 ^{mm}
多度津の最大風速	北 30.9m	北 30.1m



台風10号による被害 (昭45. 8)

(4) 昭和九年(一九三四) 九月二十一日(室戸台風) 二十一日早暁土佐沖に襲来し、台風の中心が室戸の西方に上陸し、徳島市の西方を過ぎ、淡路島を縦貫して兵庫県より北越に出た。すこぶる猛烈な暴風雨となった。二十一日午前五時十分、室戸測候所では風速毎秒四五メートル、瞬間最大風速六〇メートル以上を記録した。この台風による暴風雨で、大阪・京都・兵庫・和歌山の四府県で、小学校の倒壊多数、学童の被害が大きかった。大阪湾は高潮のため浸水・倒壊の家屋多く、溺死者を多数出し、惨状は目を蔽うほどであった。この室戸台風による被害は二府・三八県の広範囲におよび、全国で死者二、八六六人、行方不明二〇〇人、傷者一五、三六一

人、全壊二七、三〇三世帯、半壊三六、一三七世帯を出した。

香川県下の被害も甚大で、死者一九人、行方不明五人、負傷者三〇人、住家の倒壊は全壊九三八戸、半壊七二八戸、浸水家屋三、三一五戸、船舶漁船の沈没・流失三四一隻、道路損壊一、三七一、橋流失六、堤防決壊七五七、農作物の被害は四五、五〇〇ヘクタールにおよんだ。各種損害合計約五五八万円、宮中から八千円のご下賜金があった。

(5) 昭和二十年(一九四五) 九月十七~十八日(枕崎台風)、十月十~十一日(阿久根台風)

① 枕崎台風(大風水害)

終戦直後の混乱期で資料不足であるが、豊浜・和田地区でもかなりの風水害があった。特に農作物の被害が大きく、稲作の減収多めで、正月に一般家庭はもとより、農家でも餅の揚げないところがあった。

② 阿久根台風(大雨・洪水)

県内の雨量一六〇~四〇〇ミリメートルに達し、九月の風水害の上にこの水害に襲われ、特に農作物に大きな被害があった。

3 昭和20年の台風による被害

項目	枕崎台風	阿久根台風
死行方不明者	13人	4人
住家 {全壊 半壊}	2,204戸	25戸
非住家 {全壊 半壊}	380	83
住家流失	1,195	—
床上浸水	786	—
床下 "	—	23
橋堤道 流決壊 防路損	32戸	1,051戸
田畑冠水	—	6,914
田畑流埋	—	14
全国的死者	—	62
	—	89
	71町	4,221町
	8	108
	2,084人	351人

一、自然災害の様子

枕崎台風による県下の水産業関係の被害は次のようである。

- ①船溜 県下で二七か所、この復旧に三か年と経費約一、八三六万五千円を要した。
- ②漁船 三三か町村で、動力船四六五隻（八一万六千円余）、無動力船三六六隻（四九万七千円余）。
- ③漁具 二八市町村で、件数三二七、約三九万四千円余。
- ④施設 一四市町村で、二二か所、約一二万三千円。

(6)昭和二十九年（一九五四）の台風 この年、九月十三（十四日）（台風一二号）、九月十八日（台風一四号）、九月二十五（二十六日）（台風一五号・洞爺丸台風）と、三つの大きい台風による風水害を受けたが、中でも台風一五号の被害が最も大であった。台風一五号は、二十五日午前一時半頃鹿児島に上陸、五時頃豊予海峡より松山付近を通過、尾の道付近から中国を横断して日本海に進行。急速度で二十六日北海道へ進み、函館湾で洞爺丸を転覆させ、海難史上に稀有の大惨事を惹き起こした。

4 台風15号による被害

項目	9月25日 ~26日
死者不明者	8人
死傷者	7人
行方不明者	5人
家屋	275戸
{ 全壊	430
{ 半壊	15
家屋一部破損	10,551戸
非住家被害	2,047
床上浸水	626戸
床下 "	5,096
田	63町
{ 埋水	210
{ 冠水	16
{ 冠水	90
道路	56
橋	24
山崩	9
鉄道	1
{ 被害	18隻
{ 沈没	109
{ 流破	325

付近を通過、尾の道付近から中国を横断して日本海に進行。急速度で二十六日北海道へ進み、函館湾で洞爺丸を転覆させ、海難史上に稀有の大惨事を惹き起こした。

(注) 香川県では、西よりの強風とやまじ風の被害が顕著であった。また沿岸の高潮による被害も大きかった。高松の

高潮二〇センチメートル。特に西讃地方の被害は甚大で、三豊郡では本山・辻・一の谷各小学校の講堂が倒壊した。豊浜・和田地区にも大きな被害があった。

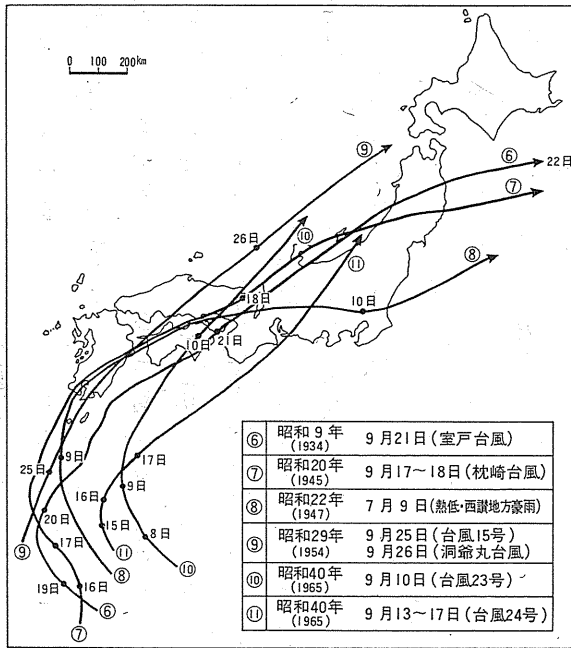
2 強風の被害の大きかったもの

香川県の場合は、強風または突風のために船舶が転覆して、溺死者および行方不明者を出すことが多い。

(1)大正十四年（一九二五）三月十二日（雷雨と強風） 寒冷前線の通過に伴い、十二日二時過ぎ、関門海峡付近に強風とともに降雹があり、東進して、四時半ごろ香川県・岡山県に達し、強風・降雹があった。仲多度郡与北村、香川郡円座村・太田村に落雷があり、住宅三棟が焼けた。

香川県では、雷雨の通過ごろから暴風となり、多度津では最大風速西二一・八メートルとなった。このため県下で船舶が難破したものが数十隻あり、死者三十六人、その他の被害があった。

5 香川県下に被害の大きかった台風の進路（昭和時代）



一、自然災害の様子

(2)昭和七年(一九三二)三月十六日 西よりの強風が吹き、風浪高く、仲多度郡白方村沖で機船(四九トン)が沈没し一六名が溺死した。三豊郡豊浜町沖では帆船一隻が沈没した。

(3)昭和三十三年(一九五八)十二月二十六、二十七日 日本海に入った低気圧が急速に発達した。このため二十六日午後になって風速が増大し、夕刻頃が最も強くなった。高松で最大風速一九メートル、瞬間最大二七メートル、多度津では最大風速二〇・八メートル、瞬間最大二五メートルを記録した。

この季節風による県下の被害は、死者三人、負傷者三人、家屋全壊一、一部破損五、船の沈没一であった。

3 大雨の被害の大きかったもの 災害の大部分は梅雨期およびその前後に発生しており、次に九月にも発生することがある。秋の大雨は間接的に台風の影響もあって、雨量も多く死亡者を出す確率も高い。大雨によって死者が出る原因としては、山崩れが原因となることが多いが、香川県では溜池が多く、河川は天井川でその堤防が決壊して洪水となり、死者が出ている。県内で被害の大きかった大雨は次の通りである。

(1)昭和六年九月十七、十八日 低気圧が四国沖を東進したため、十七日午後から大雨となり、十九時から二十時までの一時間に雨量は五五・五ミリメートルに達した。

また十八日には小豆郡で豪雨があり、河川が氾濫して、福田村で表6のような被害があった。

(2)昭和二十七年七月二、三日 梅雨前線の活動が活発となり、県下の各河川が増水した。特に土器川・吉田川等は増水甚だしく、予讃線の端岡―国分、国分―鴨川間は徐行運転を行い、琴電の陶―滝宮間の道床が崩壊して不通となった。

(3)昭和四十年九月十三、十七日 十三日から西日本に停滞していた前線を、台風二四号が北上して刺激し、十七日まで連日強い雨が降り、四国地方は記録的な大雨となった。台風は十七日昼過ぎ、室戸岬の南海上を通り熊野灘の方へ進んだ。台風による風害はほとんどなく、大雨のために山崩れ・崖崩れと水害で大きい被害が出た。

6 県内で大きかった大雨の被害

項目	昭和6年 9月17~18日	昭和27年 7月2~3日	昭和40年 9月13~17日
死者	5人	4人	3人
負傷者	(重傷) 4	4	7
家屋	(流失) 29戸 51 一	5戸	11戸
		8 12	19 19
床上浸水		451	131
床下 "		3,202	7,861
田	17ha	119ha	3ha
		4,579	1,354
畑	17ha	3	1
		112	46
道路橋	1	55	86
		7	8
堤防	1	18	32
		71	287
山崩れ			
鉄・軌道被害		3	1
県内の雨量	130mm	100~270mm	350~600mm
その他		非住家被害 41戸	(同) 11戸

(注) 昭和四十年九月十二日には、台風二三号が高知県安芸市付近に上陸し、急速度で剣山の南から香川・徳島の県境を経て播磨灘へ抜ける典型的な秋台風となり、水害よりも強い風害があった。最大風速多度津北西二五メートル、県内の雨量七〇(二二〇)ミリメートルを記録した。

○ この他に局地的に大雨・長雨によって大きい被害のあったのは、次の通りである。

(1)大正十年(一九二一)六月(三豊郡和田村の茨谷池の堤防が崩壊した水害) 連日の雨で、各池は満水し、

地盤が軟弱となり、池係りの人や村民が警戒していたが、一瞬の間に堤防の外側が崩れ、対策を講じる間もなく堤防が決壊し、白坂川一帯が洪水となった。そのため長谷部落の民家およそ八戸が（母屋の他、納屋・牛舎なども）全壊または流失、半壊・一部破損も数軒あった。

長谷・道溝（坂の下）などの良田約五町歩が流失、または荒廃した。豊浜町と和田村の境界付近は、予讃線の道床が高く築かれているため、大水はこれで防止され、豊浜町の川端・東町の一部に浸水があった程度で大難を免れた。

(2)昭和二十一年（一九四六）五月九日（大雨があり、三豊郡萩原村の大谷池の堤防が決壊した水害） 九日九時頃、大谷池の堤防が突如決壊して、大水は西丸井・福田・丸井から杵田川一帯に氾濫した。

死者三。家屋 全壊四二、半壊九五、流失四六、浸水七五。田畑 冠水六〇〇ヘクタール、その他多くの被害があった。また国鉄予讃線の本山―豊浜間の線路に浸水した。

同年六月二十一日、また大雨があり（六月上旬から度々雨が降っていた）、大谷池の水が再び逸水して、浸水家屋五、かなりの甘土が流失した。

(3)昭和二十二年（一九四七）七月九日 西讃地方に豪雨がかった。香川県警備課の調査による、各警察署管内別の水害による被害は、表7の通りである。

熱帯性低気圧が、九日、九州南部に上陸、豊予海峡から愛媛県北部を通り、瀬戸内海の香川県北部を東に抜けて大阪方面へ進み、このため梅雨前線の活動が活発となり、西讃地方に強い雨を降らせて被害を生じた。

7 西讃地方の豪雨による被害 (昭22.7.9)

管内別	合計	豊浜	観音寺	上高瀬	多度津	普通寺	琴平	丸亀
家屋	1戸	—	—	—	—	—	—	1
{ 全半	9	5	2	—	2	—	—	—
{ 壊	9	—	—	—	—	—	—	—
{ 壊	9	5	2	—	2	—	—	—
{ 下	1,248	—	916	96	78	128	30	—
{ 上	442	30	403	—	9	—	—	—
{ 荒	5町	5	—	—	—	—	—	—
{ 流	57.3	9.7	21.8	25.0	0.8	—	—	—
{ 流	1,137	65	623	286	70	50	—	43
{ 流	8.3	0.3	4.0	1.0	3.0	—	—	—
{ 流	55	—	43	12	—	—	—	—
{ 国	2	2	—	—	—	—	—	—
{ 道	16	16		—	—	—	—	—
{ 道	24	24		—	—	—	—	—
{ 村	8	3	4	1	—	—	—	—
{ 防	1	—	—	1	—	—	—	—
{ 国	3	2	1	—	—	—	—	—
{ 所	4	4	—	—	—	—	—	—
{ 決	9	5	3	1	—	—	—	—
{ 破	1	1	—	—	—	—	—	—

西讃地方の降雨量は二〇〇ミリメートルを越え、豪雨は、十一時から十六時までの僅か五時間の間に、一〇〇ミリメートル以上におよび、一時間の最大降雨量は三〇ミリメートルを越えた。

和田村では、河川の増水により吉田川にかかる橋、その他が流失した。

また、姥ヶ懐池の堤防決壊の難を避けるため、堤防の一部を切り開いて放水したために、梶谷・道溝・直場・岡部落の水田が冠水し、学校・農会・役場・民家の一部に床下浸水があった。

観音寺・豊浜管内は、降雨量が多かったのと、地形の関係で被害が大きかった。

4 濃霧による被害の様子

香川県の濃霧は、三月頃から多くなり、

一、自然災害の様子

七月に梅雨が明けると発生しなくなる。陸地でも濃霧が発生するが、災害は主に海上で発生している。被害の様子は船舶の衝突・沈没・座礁などの他に、欠航および海上停船など数字に表れない被害がある。大きい被害のあったものは、

(1)昭和十年(一九三五)七月三十日 小豆郡坂手村福部島沖で、大阪商船別府航路みどり丸(一、七二七トン)が、大連汽船貨物船千山丸(四、一一五トン)に激突され、みどり丸の船客・船員一六六名のうち七六名の死者を出した。

(2)昭和三十年(一九五五)五月十一日(八日から十一日まで連日、早朝濃霧発生) 高松港沖二湊の海上で、宇高連絡船紫雲丸(一、五〇〇トン)が、貨車航送船第三宇高丸と衝突して沈没し、紫雲丸の乗船者八〇〇人中一六八人が死亡する悲惨事を起こした。

5 地震による被害の大きかったもの
 「南海道地震」昭和二十一年(一九四六)十二月二十一日午前四時十九分頃、南海道沖で地震が発生し、大津波を伴って中部・近畿・中国・四国・九州の各地に大きな被害を出した。地震の状況は、震源地―紀伊水道潮岬南南西約五〇キロメートル、東経一三五度七三〇N、震度―五、強震でも強い方、有感継続時間約三分、最大半振幅約一〇センチメートル(推定)であった。この地震は、香川県としては宝永四年(一七〇七)十月四日、富士山の噴火で宝永山が出現した時の地震、安政元年(一八五四)十一月十五日の地震以来の強震であり、中でも被害の大きかったのがこの南海道地震である。

(1)家屋の被害
 この地震による県下および豊浜警察署管内の被害状況は、次の通りである。

豊浜管内	区 分		全 壊	半 壊	大 破	中 破	小 破	計
	住 家	非住家						
	住 五	非 五						
住家	三二七	二九一	一	一、五六九	八六三	二、三八三	一〇、一八六	一五、三一八
非住家	一一五	八四〇	一	一	四一七	三〇八	三一四	六三三
合計	六〇八	二、四〇九	二	二	一、二九一	三、七六二	五、八九九	二二、六五九
損害見積額	二六、〇四〇千円	〇四、〇七七、〇四〇千円	二、二五六千円	二、二五六千円	二、二五六千円	六、五六二千円	一、三、八九九千円	一六五、八九一

(2)罹災世帯数および人員

区 分	世帯数	罹 災 人 員		
		死亡	重傷	軽傷健康者
住宅を失ったもの	三三三	五	一四	一、〇三〇
修理完了まで一時 立退きしたものが相 立退きを要しないが相 当被害を受けたもの	一、三三三	一	二	五、〇四四
合計	一、六六六	六	一六	六、〇七四

豊 浜 管 内	区 分	世帯数	罹 災 人 員		
			死亡	重傷	軽傷健康者
住宅を失ったもの	五	二	一	二	
修理完了まで一時 立退きしたものが相 立退きを要しないが相 当被害を受けたもの	七	一	一	三	
合計	一二	三	二	五	

(3) 土木・水利関係の被害 地震のために道路・橋梁・河川・海岸・港湾・砂防・溜池・水路・堤防等で、決壊・亀裂等の損害を生じた箇所は県内全体で四七七で、その損害見積額は約五、二八〇余万円、特に港湾の三、一五〇余万円、溜池の一千万円に近い被害が大きかった。

坂出港は損害が甚大で、被害額は一、八〇〇万円を要する見込みであった。溜池の多くは渇水のため、被害が他に及ばなかった。

(4) 水産業関係の被害

① 県下の漁港施設二七か所の受けた被害は、復旧に三か年と約四、三五五・六万円を要した。

② 漁船の被害は、動力船四五四隻（二〇・五万円）、無動力船五六隻（二・五万円）、計五一〇隻、被害額約二三万円であった（高松市・土庄町・与島等の被害が大きかった）。

③ 漁具・施設の受けた被害は、漁具が県下で一六八件（一〇七・七万円）で、郡別では三豊郡内の一三六件（一三・九万円）、大川郡内の二〇件（九二・二万円）、仲多度郡内の二二件（一・六万円）であった。これを被害漁具の種類件数で見ると、三豊郡内は、打瀬網が一三六件。大川郡内は、あじ・さば落網一、雑魚罟網九このしる罟網八、いか罟網二。仲多度郡内は、打瀬網一、延網三、このしる罟網八である。

施設の被害は、高松市二、大川郡二、木田郡一、香川郡一で、県下で六か所、九件。坪数三、六五八坪、被害額五二・七万円であった。

注 (1) 地震関係の資料は、香川県警備課・高松管区气象台・県農食課調べ、及び昭和二十五年香川県統計年鑑について

調査した。

(2) この地震による、長野・静岡以西二府三県に亘る被害は、罹災者二三三、三五一一人、死者一、三三〇人、行方不明一一三人、傷者三、八四二人、住家の全壊九、〇七〇戸、半壊一九、二〇四戸、非住家全壊二、五二二戸、半壊四、二八三戸、田畑の流失浸水六、七一八町歩、船舶の流失・沈没・破損は二、三四九件、漁網流失一、二七一統等が主要な被害で、人的被害は高知・和歌山・徳島が大部分を占め、建物の被害は高知が最も多く、新宮市・高知県中村町には火災による被害が出た。

6 早天・早魘の被害の大きかったもの

香川県では、明治二十六年（一八九三）から、昭和四十二年（一九六七）までの七五年間の統計によると、七、八月ごろは盛夏を中心とした約一か月程度の早天はかなり多く、三、四年に一回くらいの割合で発生している。時には連年早天の年もある。香川県下の水稲収量を主とした農業早害の甚大であった年は、災害年表（一一五四ページ）に示した通りである。

明治二十七年（一八九四）や、昭和十四年（一九三九）の大旱害年は、いずれも年初から引続き雨が少なく、六月から八月までの総雨量もまた異常に少なく、梅雨期の雨量が少ない上に盛夏時はいつそう早天が続くという異常現象であった。一月から三月までの総雨量を指数としてみた場合、多度津で一四〇ミリメートル未満の年は、夏季の早魘が起り易いことが指摘されている。また、六月から八月までの夏季総雨量で見ると、多度津で三〇〇ミリメートル以下のような年は早害のおそれがあり、二〇〇ミリメートル以下になるとほとんど無条件に大早害を惹き起こしている。明治二十七年や昭和十四年は特に顕著で、一五〇ミリメートルに達しなかった。

終戦（昭和二十年）後は一般に多雨期間に属するせいか、気象上の大旱魃はほとんど発生していない。また水稲中心にみても、県全体として旱害の大きいものはほとんどない。これは溜池やダムが整備されたことと、農業の進歩や近代化が進められたことが、旱魃の被害を少なくした原因と思われる。しかし気象的にみると、明治十七年や昭和十四年にあつたような広範囲、大規模の旱魃の試練は受けていないが、最近では大小都市の人口が増し、これに伴い水資源が重要となり、旱天が続くと水道の水不足や水力発電能力減退等の問題が起こるようになって来た。

県下の旱魃による被害は、災害年表（一一五四ページ）に記載した程度の資料しかないが、まとまった調査資料のあつたものは、次の通りである。

- (1) 昭和九年（一九三四）の大旱魃（同年八月二十六日現在の調査） 作付面積三五、七七八ヘクタール、被害田二〇、一七〇ヘクタール、枯死田一、〇八一ヘクタール。
- (2) 昭和十四年（一九三九）の大旱魃・凶荒年（同年七月十五日現在の調査） 作付予定面積三七、七七六ヘクタール、田植未了面積一、三八七ヘクタールのうち、植付見込み面積二四九ヘクタール、降雨のない場合の植付不能面積は一、一三八ヘクタール、現在枯渴の面積は九一一ヘクタール、以後一〇日で枯渴見込みの面積四、六〇ヘクタール、以降二〇日の旱害で枯渴の面積一一、二五〇ヘクタールであつた。
- (3) 昭和二十三年（一九四八）七月と八月の旱魃で水稲の被害を調べると、県下の植付不能面積は約二、四八〇ヘクタール、被害数量約三万三、六六〇余石、植付不能面積については、甘藷・こきび・大豆・野菜等を代作し

た。（これを米石に換算、米作のおよそ四割とみて、被害数量は六割の減収量とみている）。水稲植付地も多少の旱害を受けたが、八月下旬に降雨があり、被害は少なかつた。

(4) 昭和三十七年（一九六二）夏旱魃による被害は、山間部の水稲は七割五分、陸稲は全面積に被害があり、野菜は全面積の五五％、みかんは六九％、園芸作物は九二％。その他、茶・柿・ぶどう等にもかなりの被害があつた。これらの農業関係の被害総額は約八四億円にのぼつた。

7 稲の病害虫による被害

苗代の頃、二化螟虫や三化螟虫が卵を産みつけ、田植後多大の損害を生じる。大正から、昭和（戦争前）の頃は、農家は苗代に誘蛾燈をつけて蛾をとっていたが、大きい効果を挙げているのは小学校の児童たちによる害虫駆除であつた。六月に入り田植前の二、三週間、学校は午後の授業をやめて、一週間に二〜三回、部落毎に、時には学年別に担任の教師が付添で、苗代の蛾や卵を駆除していた。

農家では冬の終り頃、池の堤・川原の土堤・畦道などの雑草が枯れたのを協力して焼き払っていたが、大正時代には、小学校の上級生の男子が受持の先生に引率されて草焼きに行つたこともあつた。

昭和十八、九年頃は戦争がひどくなり、害虫駆除にも行けず、螟虫が多く発生し、特に鉄道沿線では螟虫の被害のため九月の中頃には白穂が一面に広がり、これを抜き取りに行つたことがあつた。

県農食課調べによると、香川県下の稲の病虫害による被害の様子は、次の通りである。

年次	作付面積	減収石数	内三化螟虫	その他	減収率
昭二一	三三四、二三六	三〇、三三〇	二六、四七六	二三四	三・九
二二	三四一、五五〇	八一、四一六	七〇、七九九	五、六八八	一一・八
二三	三三二、一五八	四三、四四三	二〇、五三五	一七、〇六一	五・八

注 (1) 昭和二十三年の減収石数の多かったのは、綾歌郡の九、六一〇石、仲多度郡の九、五七四石、次いで三豊郡の六、五二七石、大川郡の四、八八四石、木田郡の四、三二二石で、西讃の被害が特に多かった。

(2) その他は、浮鹿子・胡麻葉枯病・稲熱病その他の病虫害。昭和二十一年は三化螟虫の被害が多く、同二十二、二十三年は二化螟虫の被害が多かった。

8 その他、被害のひどかったもの

(1) 昭和三十八年（一九六三）一月（寒波・強風・大雪による香川県下の被害）年末から本邦を襲った寒波は、台風クラスの強風と大雪を伴い、強風による建物の損壊（長野県では家屋の被害一、六〇〇戸）・海難事故・火災の頻発、さらに北陸地方の豪雪（死者八六八人、行方不明八八人）・列車不通等全国的に大災害を与えた。

香川県下でも、最大瞬間風速三〇メートルを越え、連日の強風―季節風に伴った大雪、低温、異常乾燥など、過去に例の少ない異常寒波であった。このため各方面に直接、間接の被害が発生した。

被害の主なもの、次の通りである。

① 強風・異常乾燥による被害

- 。海上交通の欠航続き
 - 。海難―十八日、第五双美丸（曳き船）小豆島北岸で沈没
 - 。電力―六日、高松で配電線断線による停電
 - 。火災―二十一日、坂出市繁華街で六戸焼失
 - 。農業―ビニールハウスの破損、草花類の被害
 - 。漁業―出漁日数は月間、数日
- ② 寒波・大雪による被害
- 。陸上交通の麻痺、土讃線不通（三一日）
 - 。積雪と路面凍結による道路閉鎖
 - 。バス路線の不通
 - 。学校の休校
 - 。農業―果樹・野菜類の被害甚大

8 寒波・強風・大雪による農業関係の被害（昭38.1）

項 目	被害面積	被害量	被害額
麦 類	9,967 ^{ha}	755 ^{トン}	2,917.7 ^{万円}
雑穀(えんどう, そらまめ)	852	178	778.5
野菜 (ほうれんそう, キャベツ, キュウリ, トマト, カボチャ)	887	1,148	2,600.9
果樹 (みかん, びわ, 夏みかん)	1,641	4,306	16,709.0
工芸作物 (オリーブ, ゼラニウム)	136	633	1,028.3
飼料作物 (エンバク)	119	148	17.8
その他, 草花類	157	70.5 ^{万本}	584.7
被害総額	2億4,636.9万円		

(注) 2月10日現在, 香川県統計調査事務所の調査。

。交通事故の頻発

。電力の塩風害、積雪による変電所事故（林田変電所）

これらの被害のうち、とりわけ農業関係の被害が大きかった（表8参照）。また連日の強風のため（暴風日

一、自然災害の様子

数、多度津で三〇日）出漁不能の日が続いたことと、漁業関係の間接的被害も大であった（多度津での出漁不能日、平年は九日）。

(2) 昭和三十八年（一九六三）（四月十六～十九日の濃霧、五月の異常気象―長雨・濃霧―による香川県内の農業関係その他の被害）

- 。麦の倒伏・腐敗・穂発芽・流失等
- 。葉菜・果菜の受精不能・落花・病害・腐敗等

- 。果樹の落葉・落果等

。霧による宇高連絡船の欠航回数、四月十六日から七月七日までに二三〇回

。五月三十日の濃霧で、坂出沖で貨物船第一五東洋丸と第二伊予丸が衝突して、

第一五東洋丸が沈没した。

この期間中の被害と、その後の被害は下表のようであった。

9 香川県下の農作物の被害状況（昭38の濃霧・長雨）

項 目	長雨による被害		昭和38年産被害 累 計 量 (雪害等を含む)	
	被害面積 ha	被害量 トン		
麦 類	小 麦	13,903	34,130	41,118
	裸 麦	16,394	52,786	
	二条大麦	134	310	
	小 計	30,431	87,226	99,098
馬 鈴 薯	846	5,685		
菜 種	287	211		
雑 穀, 豆 類	1,331	984		
野 菜 類	2,939	20,227		
果 樹	3,540	9,358		
工 芸 作 物	272	286		
そ の 他	74	51,300		
総 計	39,720	123,977	51,300	

五月以来の長雨で、各地の溜池は満水状態の上に、台風二号（六月二～四日）、台風三号（六月十三日）、雷雨（六月六日・六月三十日・八月二十八日）、台風九号（八月九日）等があり、溜池の堤防決壊・河川の氾濫・崖崩れ等による被害があった。

- 。堤防決壊 一
- 。床下浸水 三〇
- 。溜池関係被害六九池、復旧費三、二四七万円
- 。山・崖崩れ 三八
- 。道路損壊 八
- 。非住家被害 一
- 。鉄・軌道被害 一

二、豊浜町災害年表

一、豊浜町災害年表

西暦	年号	一般的事項	郷土的事項
四一六	(允恭)五年		
五〇〇	(武烈)二年	天より火降り諸国石室を築く。	讃岐の国に地震(七・一四)。
五六七	(欽明)二八年	郡・国、洪水で飢饉。	
五九九	(推古)七年	大和に地震。	讃岐地方にも微震(四・二七)。
六四六	大化二年	大化の改新。	六月、早魃・飢饉。八月、強風、讃岐・伊予を始め一七か国に蝗害・風害。
七〇一	大宝元年		讃岐の国にも強い地震(五・一五)。
七一〇	和銅三年	平城京に都を遷す。	夏、早魃。八月、大風。
七一五	靈龜九年	近江に地震	
七三〇	天平二年	施薬院を作る。	
七三二	天平四年		
七三四	天平六年	畿内に大地震。	
七三七	天平九年	天然痘流行。	

七四五	天平一七年	摂津の国に地震。	
七五四	天平勝宝六年		讃岐にも地震(四・二七)。
七六三	天平宝字七年		八月、風雨強く被害がある。
七六四	天平八年	山陽・南海の二道諸国に旱疫。	阿波・伊予・讃岐は大旱魃で五穀が実らず。
七七五	天平神護六年	大和に地震。	讃岐地方にも地震(一〇・六)。
七九四	延暦一三年	平安京に遷都。	
七九八	延暦一七年	美作・備前・備後の南海道諸国、肥前・豊後等一一か国、天候不順で田租全免。	阿波・讃岐は長雨で苗が腐損。
七九九	延暦一八年		
八〇二	延暦二十二年	暴風雨のため紀伊・淡路・阿波・讃岐等一〇か国の田に害があり、百姓の租税が免じられる。	四月から八月まで水飢饉、夏、大旱魃。大雨・洪水のため満濃池の堤防が流失。夏、大旱魃。秋、大雨で大洪水。早魃八十余日におよぶ。菅原道真、讃岐の国司となる(一・一六)。
八一七	弘仁八年		
八一八	弘仁九年		
八一九	弘仁一〇年		
八五一	仁寿元年		
八五二	仁寿二年		
八八六	仁和二年		

二、豊浜町災害年表

一、豊浜町災害年表

八八七	仁和 三年	南海道・東海道沖地震が五畿・七道諸国におよび、津波・山崩れを生じ民家倒壊し、多くの死傷者を出す(七・三〇)。
八八八	〃 四年	
九七六	貞元 元年	
一〇二七	万寿 四年	
一〇九六	嘉保 三年	十一月、山城・大和に地震。
一〇九七	永長 二年	
一〇九九	承德 三年	地震があり、疫病が流行。
一一五〇	久安 六年	
一一五六	保元 元年	保元の乱。
一一七五	安元 元年	庖瘡流行。
一一七七	治承 元年	十月、大和に強震。
一一八三	寿永 二年	
一一八四	〃 三年	
一一八五	元暦 二年	二月、暴風雨。 平氏、壇の浦に滅ぶ。頼朝、諸国に
		夏、讃岐に大旱魃。菅原道真、城山で雨乞いをして大雨がある。 讃岐の国に大地震(七・一三)。 四月、讃岐に降雪、四尺(約一・二メートル)におよぶ。 電が降る(五・六)。 十一月、天変地異がある。 八月、阿波・土佐・讃岐など旱魃。 崇徳上皇、讃岐に流される(八・三)。 余震が讃岐におよぶ。 安德天皇、屋島に移る。 大雨・洪水のため満濃池の堤防が壊れ(五・一)、その後池内は村落となり、池内村として四五〇年間放置される。 二月十七日、平家追討の義経を將とする源氏方は、風雨俄かに起こり、進発を見合わせる。翌十八日、義経の軍は風雨を

一二〇七	承元 元年	文治 元年	守護・地頭を置く。
一二一三	建暦 三年		京都に大地震。
一二三〇	寛喜 二年		
一二五八	正嘉 二年		
一二三四	建武 元年		建武の新政始まる。
一二六一	正平一六年		近畿に大地震。
一二七〇	建徳 元年		
一二七一	〃 二年		
一二七五	天授 元年		
一二八一	弘和 元年		
一三八六	元中 三年		
一三九六	応永 三年		
一三九七	〃 四年		
一四〇六	〃 三年		
一四〇七	〃 一四年		
			冒して丑の刻(二時)摂津国渡辺から五隻の船に乗り込んで進発し、卯の刻(六時)、阿波の勝浦(小松島付近)に漂着する。屋島で源平の合戦がある。 法然上人、讃岐に流される。 正月・五月・七月・八月に地震。 激しい降霜(七・一六)。 大風・洪水(八・一二)。 喜岡城主舟木頼重、讃岐守護職に任命される。 六月より八月中旬まで降雨なく、牛馬の疫病流行。 五月中旬より七月中旬まで降雨がない。 六月大風、八月大風雨で五穀が実らない。 三月下旬から八月下旬にかけて雨なく、大旱魃で疫病流行。百日も旱魃が続く。 七月二十二日から九月二日まで大旱魃、冬に大雨が続く。 疫病流行。 正月、大雨で山野の樹木倒れる。 五月中旬から七月中旬まで降雨なく大飢饉となる。

一、豊浜町災害年表

一、豊浜町災害年表

一四〇八	応永一五年	四月十六日から八月十一日まで降雨がない。
一四〇九	〃一六年	一月と五月に地震。年の初めより八月まで降雨がない。
一四一〇	〃一七年	小嵐が繁殖して、田畑を荒らす。
一四一一	〃一八年	大嵐が繁殖する。
一四一二	〃一九年	六く七月に早魃。
一四一三	〃二〇年	三月、風雪による被害。
一四一九	〃二六年	秋、大風吹く。
一四二〇	〃二七年	大早魃。
一四二三	〃三〇年	五月、大風雨に襲われる。
一四二四	〃三一年	四月、大霰降る。
一四二八	正長元年	畿内に土一揆広がる。
一四一九	永享元年	播磨に一揆起こり。各地に広がる。
一四三〇	〃二年	九月、関東地方に強震。
一四三三	〃五年	細川勝元、管領に任じられる。
一四三四	〃六年	四月、京都に地震。飢饉で疫病流行。
一四四五	文安二年	
一四四九	〃六年	

一四五七	長祿元年	諸国旱魃で五穀実らず。
一四五八	〃二年	
一四五九	〃三年	
一四六〇	寛正元年	
一四六一	〃二年	
一四六三	〃四年	五月、月が三つ並んで見える。
一四六七	応仁元年	応仁の乱起こる。
一四七五	文明七年	応仁の乱終わり、戦国時代となる。
一四七七	〃九年	
一四八一	〃一三年	
一四八五	〃一七年	山城に一揆起こる。
一四八六	〃一八年	
一五〇一	文亀元年	十二月、越後に地震。
一五〇三	〃三年	大早魃。
一五一〇	永正五年	八月摂津・河内・遠江に地震。
一五三一	享祿四年	八月、彗星現れる。
一五三二	天文元年	

二、豊浜町災害年表

讃岐の池、旱魃。
 六月、早魃。十一月、激しい雷電がある。
 大早魃で五穀が実らない。
 早魃で、八月末に大雨。
 疫病流行して路頭で死ぬ者が多い。
 八月に大風。
 大早魃。
 夏、早魃。秋、大雨・洪水で大被害。
 早魃。
 大早魃で、行き倒れて死ぬ者が多く出る。
 讃岐の早魃は特にひどく、山野・屋裏の竹木が炎熱のために割れる。
 正月に大地震。

二、豊浜町災害年表

一五四四	天文一三年	
一五五七	弘治三年	
一五五九	永祿二年	
一五六三	〃 六年	室町幕府滅亡。
一五七三	天正元年	
一五七四	〃 二年	
一五七七	〃 五年	九月、大彗星現れる。
一五七八	〃 六年	
一五七九	〃 七年	
一五八〇	〃 八年	
一五八二	〃 一〇年	本能寺の変。大閣検地始まる。
一五八四	〃 一二年	
一五八五	〃 一三年	秀吉、四国平定。大和を中心に大地震があり、年を越しても止まない。 (一一・二九)。
一五八九	〃 一七年	
一五九一	〃 一九年	
一五九五	文祿四年	

一五九六	慶長元年	豊後で陸地が陥没して海となり、山が崩れ、土地が裂け、余震が四、五日間止まない。
一六〇五	〃 一〇年	太平洋沿岸の諸地域に地震。
一六〇六	〃 一一年	八月二十九日夜から九月一日巳の刻(十時)まで暴風雨。美濃・近江・伊勢は大風、尾州より東は川止め、中国・四国は大風で浜辺は所々に塩水が侵入。
一六一一	〃 一六年	八月、会津地方に、十月、陸奥に地震。
一六一二	〃 一七年	七月、近江以西に大風吹く。
一六一四	〃 一九年	大阪冬の陣。
一六一七	元和三年	
一六二五	寛永二年	
一六二六	〃 三年	
一六二七	〃 四年	
一六二八	〃 五年	
一六三〇	〃 七年	六月江戸に大地震。
一六三三	〃 一〇年	一月、武蔵・相模・駿河・伊豆の諸

二、豊浜町災害年表

地震が長く続く(閏七・一二)。

四月二十二日、大雹。七月、強風。十月二十五日、大地震。

十月、大地震。

彗星が現れる。

十一月、四国に大地震。

閏四月二十七日、大風雨。その後七月十五日まで九日間、日照り続きで餓死する者が多く出る。

九月四日、大地震。同月十二日、暴風雨。

西島八兵衛が満濃池・三谷三郎池を修築する。

一、豊浜町災害年表

一六三四	寛永十一年	国に大地震。	正月十五日、高松に大火。
一六三八	〃 一五年		夏、旱魃。秋大飢饉となる。
一六四二	〃 一十九年	春・夏、大飢饉起こる。	四月から六月まで雨降らず凶作。秋から冬にかけて餓死者が多く出る。
一六四三	〃 二〇年		春から秋にかけて大旱魃。領内大日照りのため四〇六の池を構築。これまでの九六〇を加えて一、三六六となる。満濃池が最大で神内・三谷池がこれに次ぐ。
一六四五	正保二年		七月十六日の大雨で井関池決壊。
一六四八	慶安元年	二月、伊予・安芸に、六月と七月、武蔵に地震。	二月の大雨で井関池決壊。
一六四九	〃 二年		一月、高松に大火があり、延焼四八〇戸におよぶ。
一六五三	承応二年		午歳の大旱。夏、日照り。秋、洪水、凶作。牛馬の悪疫で倒れるものが多い。
一六五四	〃 三年		水口まつりを盛んに行う。
一六五五	明暦元年	江戸に大火があり、焼死者三万七千余り、世に「明暦の大火」といわれる。	五月、大洪水。
一六五七	〃 三年		五月、大地震。
一六五九	万治二年		

一六六〇	万治三年		五月、大洪水。
一六六一	寛文元年		五月一日、地震。夏、大雹降る。
一六六二	〃 二年	五月、近畿・東海に、九月、日向に大地震。六月二十九日から七月二日にかけて、讃岐・阿波・土佐・紀州に大暴風雨。	高松城の乾の隅櫓に落雷、多くの武器を焼く。
一六六六	〃 六年		七月、大風で丸亀藩内に大きな被害。
一六六八	〃 八年		夏、旱魃。
一六七三	延宝十三年	五月、四国地方に大雨・洪水。	五月と八月に大雨・大洪水。丸亀藩内の被害大。
一六七四	〃 二年	八月、暴風雨。	讃岐は大風雨となる。
一六七五	〃 三年	八月十七日、暴風雨。四国・九州・中国各地に大風・高潮襲来。	姫浜、豆塚の新田を開拓。
一六七八	〃 六年	八月四日から六日まで暴風雨。西国・四国地方大風・洪水となる。	飢饉で穀物の船積みを停止し、御救金・御蔵麦を難民に給与する。
一六七九	〃 七年		姫浜長谷新田畑、和田浜三軒屋新田畑を開拓。
一六八〇	〃 八年		秋、大洪水・山崩れ。
一六八一	天和九年		八月、大洪水。冬、南西に白気・長星が現れる。
一六八二	〃 二年	関西一帯に大飢饉。	大風・洪水で水死者一〇〇余人、凶作で餓死者が多く出る。世に「辛酉の洪水」といわれる(八・一六〇)。

二、豊浜町災害年表

一、豊浜町災害年表

一六八三	天和 三年	四月から五月にかけて、日光地方に三回の大地震。
一六八五	貞享 二年	八月十一日、遠江・三河に地震。
一六八六	〃 三年	流星が南東から北西に飛び、その音雷の如く、光は数十里におよぶ。
一六八七	〃 四年	七月二十五日、烈風・大洪水起こる。
一六九〇	元禄 三年	大風・洪水で高松城の東西の堤防が壊れ、藩士の禄十分の五を収めさせる(九・九)。
一六九一	〃 四年	六月から七月にかけて旱魃。
一六九三	〃 六年	大風雨で丸亀藩内に大被害(八・二)。
一六九五	〃 八年	高松藩士の禄を四分の一収めさせることに改める。
一六九六	〃 九年	六月七日、非常節約令を出す。七月、大風・洪水で凶作となる。
一六九七	〃 一〇年	九月、大風・洪水。
一六九八	〃 十一年	夏、旱魃。
一六九九	〃 十二年	五月二十日、大雨。五剣山の北峰が暁の豪雨に崩れる。夏、旱魃。
一七〇〇	〃 十三年	六月、大旱魃で各地で雨乞いを行う。
一七〇一	〃 十四年	夏、旱魃。 五月から八月まで、伊予・讃岐・土佐は旱魃で飢饉となる。
一七〇二	元禄 十五年	六月、大旱魃で各地で雨乞いを行う。

一七〇二	元禄 十五年	七月、八月、大洪水。蝗の害あり、田租を免じ、餓民を救済する。
一七〇三	〃 一六年	蝗が発生して稲に大被害。
一七〇四	宝永 元年	八月十一日、暴雨風。九月十二日、大風・洪水。十月四日、地震。
一七〇六	〃 三年	五月、六月、大旱魃で雨乞い祈禱が続く。
一七〇七	〃 四年	三月、地震。八月、豪雨。九月、大風雨。十月、大地震。五剣山の一峯が崩壊し、余震続く。
一七〇八	〃 五年	六月から八月まで旱魃。八月四日、暴風雨。
一七〇九	〃 六年	丸亀藩に麻疹が流行し、大きな被害がある。衣服に関する禁令が発せられる。
一七一〇	〃 七年	六月から八月に大旱魃。八月、大風雨・洪水のため五穀実らず、飢饉となり、疱瘡も流行する。
一七一〇	〃 七年	大地震のため倒壊家屋一、〇七三軒、死者千人余に及ぶ。
一七一〇	〃 七年	十一月、東讃に津波起こり、人々山に逃れる。
一七一〇	〃 七年	夏旱天が七〇日余り続く。一夜庵の俳人百花が降雨を祈る。
一七一〇	〃 七年	暴風雨のため農作物の被害が大きく、屋根が飛び、樹木が多く倒れる。
一七一〇	〃 七年	春から夏に疫病が流行する。
一七一〇	〃 七年	この頃、江戸に大火が続く。
一七一〇	〃 七年	富士山噴火、史上最大の地震が起こり、東海・畿内・南海・九州に大きな被害。遠江の新井関が没した。
一七一〇	〃 七年	この頃、全国に麻疹が流行。七月四日、暴風雨。
一七一〇	〃 七年	十一月、関東地方に大地震。大火・津波が重なり大きな被害がある。

一、豊浜町災害年表

一、豊浜町災害年表

一七二五	〃	一〇年		前年冬から八月にかけて疫病が流行し、死者千人を越える。早魃で雨を祈る。
一七二六	享保	元年	吉宗の「享保の改革」が行われる。	高松藩士の禄四分の一を収めさせる。
一七二七	〃	二年		高松城下に大火。民家二、三〇〇余戸、船三〇艘を焼失。
一七二八	〃	三年		五月四日、霜降り、寒気ひどく、牛馬二、二〇〇余頭死ぬ。七月、八月、早魃。蝗発生、大飢饉となる。
一七二九	〃	四年	七月十三日、九州・四国地方に稀代の大風雨襲来。	西讃は六月・七月早魃。八月、雹降り、五穀不作。蝗発生し大飢饉となる。高松藩士の禄十分の五を収めさせる。
一七三〇	〃	五年		霖雨・大雨。丸亀藩内に大きな被害。高松藩士の禄四分の一を収めさせる。
一七三一	〃	六年		凶作続きで飢える者多く、救援が行われる。
一七三二	〃	七年	九月、大流星が現れる。上げ米の制を定める。	閏七月。大雨・洪水。
一七三三	〃	八年	足高の制・物価引下げ令を出す。	六月・八月、大風水害。冬、大いに飢える。
一七三四	〃	九年		正月、大風のため民家多く倒壊。三月、疱瘡流行し、死者数千人におよぶ。
一七三五	〃	一〇年		夏、早魃。

二、豊浜町災害年表

一七二六	享保	二年	越前地方に地震。	一月から三月に大雪。九月、豪雨・凶作。盗賊がしきりに出没する。
一七二七	〃	三年		一月、地震。二月十六日、大風。同月十八日、大風雨・雷。同月十九日、大風。船舶破損、溺死者が多く出る。三月、雷。四月、地震。八月、大風水害起こる。
一七二八	〃	四年		八月、大風・洪水。
一七二九	〃	五年		春から夏にかけ旱天。九月、大風・洪水。十月、大雪の被害がある。
一七三〇	〃	六年		五月、降雹。五月、六月旱天、祈雨。七月、霖雨、大風・洪水。八月、疫病流行。蝗の害。十月、麻疹流行。
一七三一	〃	七年	夏、西海・山陽・南海は長雨で、各所に洪水。西日本に虫書が出て大飢饉となる(享保の大飢饉)。	六月・七月、雷雨・落雷。十月六日、大雨。享保三年以来の凶作続きで乞食となる者が多く出る。
一七三二	〃	八年	江戸に打ち壊しが起こる。	秋、蝗の害あり、飢饉が続く。
一七三三	〃	九年		七月、疫病流行。秋、蝗の害あり、大飢饉となり、死者多く、藩士の禄十分の五を収めさせる。
一七三四	元文	元年		三月から四月にかけ、疫病の流行で死者が多く出る。
一七三五	〃	二年		四月から六月にかけ霖雨六〇日。八月、洪水。十月、十二月、地震・雷・大風。

二、豊浜町災害年表

一七三八	元文	三年
一七三九	〃	四年
一七四〇	〃	五年
一七四一	寛保	元年
一七四二	〃	二年
一七四三	〃	三年
一七四四	延享	元年
一七四五	〃	二年
一七四六	〃	三年
一七四七	〃	四年
一七四八	寛延	元年

但馬の生野に一揆起こる。

三月、降雹。五月、暴風雨。八月、大風・洪水。十二月、大雪。
 三月、降雹。夏、大旱魃、祈雨。七月、大雹・洪水。八月、大風雨。大谷池（大野原町）の堤防大破。
 七月、大風・洪水・大雷雨。八月、大風・洪水。
 四月一日、地震。七月、早魃。七月二十二、二十三、大風雨。東隣で民家二千戸倒壊。藩主儉約令を出す。十二月、地震。
 六月、大風・洪水。用度不足のため非常儉約令を出す。
 五月、大風雨。七月、大風・洪水。冬から翌春の間、疫病が大流行して死者が多く出る。
 六月、疫病。八月、大風・洪水。九月、霖雨。螟虫大発生。冬、寒さ甚だしく、阿讃の山に積雪丈余。川の氷尺余。井戸水も凍る。山中に住む人畜は飢えて寒さに悩む。
 五月、大雨。六月、大雷雨。八月、風雨で人馬が多く溺死する。儉約令が公布される。
 八月二十四日、大風・洪水。秋、蝗害発生。五穀不作。
 八月、大風・洪水。九月、伝染病流行。
 六月四、五日、風雨・洪水の後、七月二十日まで早魃。農作物枯死する。
 七月二十、二十二日、大雨・洪水で多くの民家・田が流失

一七四九	寛延	二年
一七五〇	〃	三年
一七五一	宝暦	元年
一七五二	〃	二年
一七五三	〃	三年
一七五四	〃	四年
一七五五	〃	五年
一七五六	〃	六年
一七五七	〃	七年
一七五九	〃	九年

四月、越後地方に大地震。

蓄米の令を出す。

九月二日、十六日、大風・洪水で農作物の収穫なく、冬から翌年にかけて大飢饉。
 四月、地震。六月、風雨・洪水。八月から九月にかけて牛疫流行し、数千頭死ぬ。凶作で多くの餓死者が出る。井関池の堤防四十間余決壊し、人畜に多くの死傷を出す。
 正月二日、丸亀・多度津藩内に百姓一揆が起こる（集団数万人で強訴・暴動）。高松藩、春再び藩米三、五〇〇石を困窮民に貸与する。七月から八月にかけて早天。八月から九月にかけて、牛馬の悪疫流行して四千余頭死ぬ。八月六日、高松藩、儉約令を出す。
 六月、大風・洪水。七月と八月、早魃。
 七月と八月に大風・洪水。秋、蝗害。
 三月、石清尾・郷東の山中に猪・鹿がしきりに出沒。宝暦六年までに猪一、五六八頭、鹿一、三三八頭を退治する。
 六月・七月降雨なく、旱害が起こる。七月二十六日、風雨
 九月五日、風雨で牛馬が死ぬ。
 夏、早魃で五穀減収。
 五月から七月にかけて早魃。
 六、七月に日照りが続き、七、九月に大風雨・洪水。民家・人畜に大きな被害がある。
 高松藩、非常節約令を出し、城内外に投書箱を設置する。

二、豊浜町災害年表

二、豊浜町災青年表

一七六〇	宝曆一〇年	江戸に大火起こる。	夏、旱魃。
一七六二	〃 一二年	九月、佐渡地方に地震。	五月、六月に日照りが続き、多度津藩領内の損耗は五、五四三石余におよぶ(巡見使調査)。藩主、儉約令を出す。
一七六三	〃 一三年		儉約令が出る。
一七六五	明和二年	関東に百姓大い擧。イギリスで産業革命始まる。	八月、大風・洪水。海辺に高潮起こる。十月、大雨。
一七六六	〃 三年	大飢饉起こる。世に「明和の飢饉」といわれる(一七六六〜一七七二)。	一月、大雪。二月から三月にかけ長雨。六月から八月にかけ大旱魃。十二月、大風吹く。
一七六七	〃 四年		夏、旱魃。藩主から御教書が給与される。
一七六八	〃 五年		四月九日から五月下旬まで降雨。五月二十七日、洪水。以後七月末まで旱魃。七月、大風。九月、また大風・洪水で堤防が多く壊れる。豊田郡の被害が最も大きかった。
一七六九	〃 六年		八月、大風・洪水。丸亀藩主が救助を行う。大野原中心に義倉条約ができる。
一七七〇	〃 七年		四月二十九日から八月二十日まで大旱魃で、稲枯死。大凶作で、多度津藩領内損高三、六五三石(巡見使調査)。
一七七二	安永元年	江戸に大火が起こり、大きな被害がある。	四月一日から六月二十五日まで降雨なく、多度津藩領内で六月になって、田植の終わったものが四割程度であった(巡見使調査)。

一七七三	安永二年		春から夏にかけて長雨が続き、世に「辰の洪水」といわれる。八月の大風・洪水に一万九千余戸倒壊、大樹倒れ、郡内の堤防の決壊が多く、破船大小一四二、庄溺死者四六人。牛馬の死ぬもの七四頭。さらに春から秋にかけて疫病流行。多度津藩の損害七、三六三石余にのぼる(巡見使調査)。この年、明和九は「めいわく(迷惑)の年」といわれ、十一月十六日改元安永元年となる。
一七七四	〃 三年		春・夏、疫病が流行し、飢饉。おが虫発生。高松に大火がある。
一七七五	〃 四年		夏、疫病流行。九月、高潮で作物に被害が生じる。
一七七六	〃 五年		丸亀藩が儉約令を出す。
一七七七	〃 六年		麻疹流行。八月、大風・洪水。高松藩が儉約令を出し、藩士の禄を四分一に減じる。
一七七九	〃 八年	十一月、薩摩・大隅に地震。桜島が噴火する。	一月二十九日、高松に大火。町家五三九戸が焼ける。
一七八一	天明元年		五月、暴風雨・洪水。漂苗数千町歩、家屋の流失・倒壊二三三戸。丸亀藩主、備荒貯蓄の法を設ける。
一七八二	〃 二年	七月、武蔵・相模地方に地震。春から夏にかけて降雨が続き、諸国に洪水がある。	正月・二月、大風雨。五月はじめ大風・洪水。五月末から九月中頃まで降雨続きで大洪水。七月初め、大風雨。八月末、大風。
一七八三	〃 三年	浅間山が噴火し、地震が起こる。天明の大飢饉始まる(一七八三〜一七八八)。関東・東北地方に冷害。	この頃、毎年災害がひどく、西讃ではわらびその他の野草を常食とする。

二、豊浜町災青年表

二、豊浜町災害年表

一七八五	天明 五年	この頃、全国的に米価が暴騰し、江戸や大坂に打ち壊しが起こる。	七月、大風・洪水の後、大旱魃で稲作の収穫がない。
一七八六	〃 六年	江戸・大坂に再び打ち壊しが起こる。	三野・豊田郡内に八月と九月に大風・洪水。九月に高潮発生し、多度津藩の損害三、〇八二石余におよぶ(巡見使調査)。
一七八七	〃 七年	「寛政の改革」始まる(松平定信)。	五月、大風がある。
一七八八	〃 八年	京都に大火が起こる。	五月十四日から六月二十一日まで、降雨続きで洪水になる。その後の夏は旱魃。
一七八九	寛政 元年	備荒貯蓄米法が制定される。	旱害・蝗害が甚だしく、丸亀藩、備荒貯蓄米の制を始める。大凶作で高松藩民に米五五〇石を貸与する。
一七九〇	〃 二年		八月、大風雨等の被害がある。
一七九一	〃 三年	関東地方に大風雨。	七月末と九月初めに大風雨・洪水。
一七九二	〃 四年	肥前に地震。	この頃、領内の孝子・貞婦の篤行を表彰する。
一七九三	〃 五年		夏、大雨があり、一の谷池の堤防が決壊する。
一七九四	〃 六年		讃岐の砂糖、大坂へ積み出される。讃岐を始め諸国旱魃。
一七九七	〃 九年		七月から閏七月にかけて大旱魃。
一七九九	〃 十一年		六月から一〇〇日間旱天が続き、八月十九日、大風・洪水。秋、蝗の発生等で五穀を荒らされる。
一八〇二	享和 二年		水害のため米価が高騰したので、酒造米高の二分の一を造りこむよう達示する。

一八〇四	文化 元年		六月、七月、旱魃。九月二日、大風雨。
一八〇六	〃 三年		四月から六月にかけて大旱魃。
一八〇八	〃 五年	伊能忠敬等が沿岸を測量。間宮林蔵が樺太探検に出かける。	六月、大風・洪水。民家・立木倒れ、飢饉となる。
一八〇九	〃 六年		六月から九月にかけて大旱魃。藩主から儉約令が出される。
一八一二	〃 九年		仲多度郡大麻山の一部崩れる。
一八一三	〃 一〇年		讃岐、旱魃となる。
一八一四	〃 十一年		五月から九月にかけて大旱魃。
一八一六	〃 十三年		閏八月三日、五日、大風・洪水。
一八一七	〃 十四年	文政 元年	五月から七月まで旱魃。九月九日、大風雨。人畜多く溺死。
一八一八	〃 元年		夏から秋まで雨がなかった。
一八二〇	〃 三年		六月二十九日、大風・洪水。
一八二一	〃 四年		七月末から八月初めにかけ、度々大風・洪水。
一八二二	〃 五年		五月から七月にかけて日照りが続く。
一八二三	〃 六年		夏から秋にかけて旱魃。一万七千余町の稲作枯死。収納米が四万七千石余減る。十月、丸亀藩、儉約令を出す。
一八二五	〃 八年		節約のお触れ書が出る。
一八二六	〃 九年		五月末から六月初めにかけ大風・洪水。

二、豊浜町災害年表

二、豊浜町災害年表

一八二八	文政十一年	十二月、越後地方に地震。	七月十七日、大風・洪水。節約令を出す。
一八一九	〃 十二年		六月から八月にかけて旱魃。
一八三〇	天保元年	七月、近畿諸国に地震。	八月、大風雨・洪水。稲の害虫発生。
一八三二	〃 三年	全国的に飢饉広がる。	八月六日、大風・洪水。
一八三三	〃 四年		七月六日、大風・洪水。この頃、大飢饉が続く農民困窮する。
一八三四	〃 五年		五月から八月にかけ長雨。米価が高騰し、藩主高朗は藩内に命じて造酒と穀物の積出しを禁止する。
一八三五	〃 六年		秋、五穀実らず、飢饉となる。
一八三六	〃 七年	天保の大飢饉起こる。	八月九日、大風・洪水。飢饉となる。
一八三七	〃 八年	大塩平八郎の乱起こる。	八月、大風・洪水。山内作兵衛、大谷山麓の開墾に着手。
一八三九	〃 一〇年		非常節儉の令を布く。
一八四一	〃 十二年	「天保の改革」が始まる。	七月十三～十四日、大風・洪水。小豆島で山津波が起こり、民家四五戸埋没。
一八四二	〃 十三年		七月十日～十一日、大風・洪水。
一八四七	弘化四年		夏、長雨が続く。九月二日、大風・洪水。秋、蝗発生。稲作に被害。
一八四九	嘉永二年		この頃、おどし鉄砲の使用が許可される。
一八五〇	〃 三年		
一八五一	四年		

一八五三	嘉永六年		五月～八月、近年稀な旱魃で、西讃一带には雨乞いの祈禱が続く。
一八五四	〃 七年	安政の大地震	七月九日、大雨。満濃池の堤防決壊し、多くの田畑流失。
	安政元年	十一月四日、東海道(遠州灘)。翌五日、南海道(土佐沖)。四国・近畿地方に大被害(死傷約三千)。	十一月四～五日、大地震。民家の倒壊が多かった(丸亀で一〇四軒)。盗賊が各所に起こる。丸亀藩では予讃の境界を厳しくし、盗賊の逮捕に努める。十一月、大雪降る。
一八五五	〃 二年	江戸に大地震(十月二～三日)。	七月と八月に大風・洪水。大いに節約の令を布く。
一八五六	〃 三年		七月初めに大風・洪水。
一八五七	〃 四年		大風・洪水があつて、節約令が布かれる。
一八五八	〃 五年		七月初めに大風・洪水。
一八五九	〃 六年	安政の大獄が起こる。	八月、コレラ流行し、多くの死者が出る。
一八六〇	万延元年	桜田門外の変。	十二月二十三日、大地震(これと、宝永四年の地震が最も大きい烈震であつた)。
一八六一	文久元年		六月、降雨。続いて不作。七月十一日、大風・洪水。稲不作。山内作兵衛らが鹿垣の工事に着手。
一八六二	〃 二年		四月～七月、麻疹流行。七月四日、大風・洪水。
一八六五	慶応元年		四月～八月、麻疹流行。七月十四日、大風・洪水。
一八六六	〃 二年		八月七日～八日、大風・洪水。同月十九日、雷雨・雹の大きな被害がある。
			夏、旱魃。八月七～八日、大風・洪水。讃岐全域に大きな被害がある(寅の大水)。十月十九日、雷雨・雹・強風。

二、豊浜町災害年表

一、豊浜町災害年表

一八六七	慶応 三年	大政奉還。	「えいじやないか」勃発。
一八六八	明治 元年	明治維新。戊辰の役。	九月七日と十八日に大風・洪水。
一八六九	〃 二年	版籍奉還。	六月十八日、丸亀藩の火薬庫爆発。九月七日〜八日、大風・洪水。
一八七〇	〃 三年	藩を廃し県を置く。	夏旱天。九月、大風・洪水。
一八七一	〃 四年	藩を廃し県を置く。	五月十七日から三日間、大暴風雨襲来。人畜に多くの死傷がある。
一八七三	〃 六年	地租改正。 徴兵令を布く。	春から雨なく、田植えに困る。十月、大風雨。 六月、竹槍騒動で宗林寺・満願寺など焼かれる。 山内作兵衛らが鹿垣八八六間を完成。開墾面積は一一町二反一畝五歩(一・二二テール)に及ぶ。
一八七六	〃 九年		夏、旱魃で稲の収穫皆無の所多く、そのため地租の貸与を得て、延納・年賦納増える。
一八七九	〃 一二年	この頃、全国的にコレラ大流行。	讃岐でもコレラが流行し、死者が多く出る。
一八八〇	〃 一三年		七月二十五日から九月十四日まで降雨なく、九月十五日に大風雨。家屋の倒れたもの一、三五一戸、死傷一六一人。
一八八一	〃 一四年		大風吹く。
一八八二	〃 一五年		暴風雨・洪水。
一八八三	〃 一六年		七月二十一日から九月十七日まで降雨なく、赤痢・コレラが大流行。次いで、大風雨・大旱魃。
一八八四	〃 一七年		暴風雨が再三襲来(八月十六日・同月二十五日・九月十七日)

一八八五	明治一八年	内閣制度始まる。	八月二十五日は風害特に甚大。
一八八六	〃 一九年		大風雨。
一八八七	〃 二〇年		六月十八日から八月二十七日まで降雨なく旱魃。
一八八八	〃 二一年		九月十七日、暴風雨。コレラ大流行。
一八八九	〃 二二年		暴風・洪水。
一八九〇	〃 二三年	第一回帝国議會を開く。町村制施行。 破傷風血清療法発見される。 この頃コレラ流行。 経済恐慌起こる。	八月十八〜十九日、暴風雨が四国地方に襲来して被害甚大。 七月三日から九月一日まで降雨なく旱魃。十月二十八日、地震。 県下にコレラ患者一、八八九名。死者一、二七〇名におよぶ。 (全国コレラ患者四万五、四五七名。死者三万三、八八〇名)
一八九一	〃 二四年	美濃・尾張地方に大地震。	一月十二日、強風。八月十六日、暴風・高潮。九月十四日、暴風・高潮。十月二十八日、讃岐に(宝永・安政に次ぐ)強震。
一八九二	〃 二五年		多度津測候所を開設。四月二十四日、暴風雨で表作に被害。 七月二十二〜二十三日、台風が四国を横断し、暴風雨で農作物に被害が出る。
一八九三	〃 二六年		六月二十三日から八月十五日まで雨らしいものなく、五穀不作。各所で雨乞いをする。
一八九四	〃 二七年	日清戦争が起こる。	夏、旱魃。春から降雨少なく、特に八月は俄か雨程度で、前年以上の惨状となる。九月十一〜十二日、台風のため和田村掘谷の和田尋常小学校の第三教室倒壊。怪我人なし。

二、豊浜町災害年表

二、豊浜町災害年表

一八九六	明治二九年	三陸地方に大津波襲来。
一八九七	〃 三〇年	
一八九八	〃 三一年	諸国に旱魃。
一八九九	〃 三二年	改正条約実施。
一九〇〇	〃 三三年	八幡製鉄所が操業を開始。
一九〇一	〃 三四年	
一九〇二	〃 三五年	
一九〇三	〃 三六年	
一九〇四	〃 三七年	日露戦争が起こる。
一九〇五	〃 三八年	ポーツマス条約に調印。
一九〇六	〃 三九年	

八月、暴風雨・大洪水。九月、台風。
五月から十月まで天候不順のため、稲作に「うんか」発生し、大きな被害が出る。夏、東讃は旱魃。九月二十七日、暴風雨で大きな被害が出る。
県下の旱魃がひどく、八月末・九月初めは台風による暴風雨。十二月十三日、強風・高波。多度津の最大風速二九・一メートルに達する。
豊浜町と改称する。七月～十月、天候不順のため凶作（七月は雨が多く、八月は低温、暴風雨。九月は低温・多雨。十月は低温）。八月二十八日、台風による風水害大きく、死者一、三六二人、家屋全壊七、〇一五戸、半壊四、二八六戸、船舶流失三三隻、同沈没一九隻、同破損八五隻におよぶ。十二月二十三日、強風・高波（西三一・〇八メートル）。八月と九月に台風。十二月七～十日、強風。
禿頭病流行。
コレラが大流行し、県下の被害は患者一、七四三名、死者一、七八三名におよぶ。十二月、風水害。
七月七～九日、大雨。七月二十四日、愛媛・香川・徳島にひどい雷雨。九月十一日、大雨。
早天続く。県下から北海道へ、一五八戸移住。
雷雨・降雹・暴風雨等で凶作になる。六月、県下にベスト流行、風の買上げ（一匹二銭とする）。
水害がある。

一九〇七	明治四〇年	
一九〇八	〃 四一年	
一九〇九	〃 四二年	
一九一〇	〃 四三年	
一九一一	〃 四四年	条約改正完成。
一九一二	〃 四五年	清国滅び中華民国成立。
一九一三	〃 二年	
一九一四	〃 三年	第一次世界大戦始まる。
一九一五	〃 四年	
一九一六	〃 五年	
一九一七	〃 六年	ロシアに革命起こる。
一九一八	〃 七年	スペイン風邪流行。シベリア出兵。
一九一九	〃 八年	
一九二〇	〃 九年	第一回国勢調査。国際連盟に加入。

高松市天神前に日赤病院開設。三月十日、大雪。林村で六〇センチメートル、高松で二〇センチメートル。
赤痢・天然痘大流行。風水害がある。
七月・八月、旱魃。
台風のため水害がある。コレラ・赤痢流行。
三回に及ぶ台風（六月十九日・八月十五日）中心が県の西部を通過。九月二十一日によって大きな被害がある。
三月、大雪。続いて旱魃。八月二十三～二十四日、九月二十二～二十三日に台風襲来。県下に赤痢が大流行。
七月と八月は旱魃で、高松・三豊両平野が特にひどかった。雷雨と台風。
八回の雷雨による雷害。再三に及ぶ台風・高潮による風水害。大谷山で山火事。
七～九月に六回の雷雨があり、被害が出る。伝染病流行のため秋祭り中止となる。
春、強風。夏、やまじ風。夏～秋、台風による風水害で大きな被害がある。
風水害があり、流行性感冒大流行。八月、米騒動。
八十八夜に大暴風雨、燧灘で漁船が遭難し、多くの死者が出る。
五月～七月、約二か月降雨がなく、旱魃。

二、豊浜町災害年表

二、豊浜町災害年表

一九二〇	大正 九年	経済恐慌起こる。	台風による風水害が三回におよぶ。
一九二二	〃 一〇年		茨谷池(鶴亀池)の堤防が崩潰。旋風起こる。伊吹島に天然痘発生し、罹病五〇人。
一九三三	〃 一二年	関東大震災。	栗島航海学校練習船西別丸(一八〇トン)が遭難し、一二人死亡。大旱魃。
一九三四	〃 一三年	アメリカが排日移民法をつくる。	六月、台風による海難発生。狂犬病多発し、県で野犬を一頭三〇銭で買上げる。
一九二五	〃 一四年	普通選挙法が公布される。	大旱魃で各地で雨乞いが行われる。十月八日、台風。十一月九日、強風で海難発生。
一九二六	〃 一五年		三月十二日、物凄く雷雨の後、暴風雨になり、県下で難破船数十隻、死者三六人となる。
昭和一元年			八月、雷害。十二月七、八日、強風のため箕浦と高松の海岸の堤防崩壊。
一九二七	〃 二年	金融恐慌起こる。	台風襲来。
一九二八	〃 三年	第一回普通選挙が行われる。	伝染病(ネムリ病)流行。七、八月、大旱魃。西讃の旱害が特にひどかった。十月二十五、二十六日、台風で東讃の被害甚大。
一九二九	〃 四年	世界恐慌が波及し、生糸の相場暴落。	二月九、十日、大雪。平地で二〇、三〇センチメートルで明治四十年以来二四年目の大雪。九月、大雨。十月、台風。
一九五〇	〃 五年	ロンドンで軍縮会議。金解禁。	
一九三一	〃 六年	満州事変起こる。	

一九三二	昭和 七年	上海事変起こる。	県下の欠食児童一、一五〇名。栄養不良児八五四名と増える。
一九三三	〃 八年	三陸地方に大地震・大津波。国際連盟脱退。	三月、強風。十一月、台風。また同月、強風のため多度津海岸で機械船、豊浜沖で帆船一隻沈没。
一九三四	〃 九年	室戸台風襲来(九月二十一日)。	大野原小学校に大火。八月、旱魃。十月、台風。屋島丸、船火事で沈没。
一九三五	〃 一〇年		大旱魃のため、各地で大火を焚いて雨乞い祈願をし、善通寺師団に実弾の発砲を依頼する。室戸台風の被害甚大。
一九三七	〃 一二年	日華事変起こる。	集中豪雨。台風(一回)・旱害に対し政府は払下米六万七千俵を本県に給付。七月三日、濃霧のため大阪商船みどり丸が千山丸と衝突して沈没する。
一九三八	〃 一三年	戦時体制強化。	九月、台風による被害。
一九三九	〃 一四年	国民徴用令公布。	五月十五、十六日、強風。九月五日、台風による風水害。
一九四〇	〃 一五年	米が切符制となる。	夏、大旱魃(大正二年を上回り、明治二十六年以来のもの)。稲の作付不能となったもの一、〇〇〇ヘクタール余。水田も灌漑不能となり、土瓶水を稲田に施す。
一九四一	〃 一六年	太平洋戦争始まる。生活必需物資統制令公布。	八月十五日、台風による風水害。八月二十日、雷雨による被害。
一九四二	〃 一七年	企業整備令・食糧管理法制定。	旱魃。八、九月、台風・豪雨。一の谷池決壊。
一九四三	〃 一八年	学徒出陣始まる。	一月十二日、強風・寒波による被害。九月二十日、台風。十二月八日、雲岡に大火。

二、豊浜町災害年表

二、豊浜町災害年表

一九四四	昭和一九年	東海地方に強震・大津波。学徒勤労動員令施行。	六月から八月中頃まで雨少なく、県下全体に旱害を受ける。
一九四五	〃二〇年	広島・長崎に原爆投下。ポツダム宣言受諾。枕崎台風襲来。	高松市を中心に、B29の空襲を受ける。九月、大風水害。十月、大雨・洪水のため稲は不作。農作物の被害甚大。
一九四六	〃二一年	金融緊急措置令(新円)公布。南海道に地震。	二月九日、大雪。五月九日、大雨。大谷池の堤防決壊。六月二十一日、大雨。七月二十九日、台風。十二月二十一日、地震。地盤沈下・建造物破損など大きな被害がある。
一九四七	〃二二年	新憲法が施行される。カスリン台風。	二月十四日、大雪。七月九日、西讃地方は豪雨による被害大。そのあと七月・八月は旱魃。
一九四八	〃二三年	福井に地震。	稲作に螟虫の被害甚大。関西汽船の女王丸が浮流機雷に触れて沈没。
一九四九	〃二四年	キティ台風。中華人民共和国成立。	暖冬異変起こる。七月、ヘスター台風襲来。九月、大雨。七月に台風。八月に熱低。九月三日のジェーン台風で土木・耕地関係に大被害(県下の損害約六億八千万円)。
一九五〇	〃二五年	ジェーン台風。国宝金閣寺焼失。	二月十四日、昭和六年以来の大雪。七月、大雨。十月、風速五〇メートルの台風襲来、西讃方面の被害甚大。観音寺署管内の家屋全壊三八戸、半壊六二戸。
一九五一	〃二六年	十月十四〜五日、ルース台風。全国で死者六六二名、行方不明三八三名、建物・田・畑・船舶の被害甚大。	七月、度々大雨。特に七月二十三日は大雨で、県下の各河川は増水し、交通に支障が生じる。
一九五二	〃二七年	十勝沖地震。皇居前メーデー事件。講和条約発効。	二月二十一日・三月二十八〜二十九日、大雪。六月・七月、雷雨と大雨。六月・九月、台風の被害。
一九五三	〃二八年	18号台風。NHKテレビ放送始まる。	長柄ダム・内場ダム完工。

一九五四	昭和二九年	15号台風。ビキニ水爆実験による被害事件起こる。	二月、大雪。六月二十九〜三十日、集中豪雨による県下の被害三億二、八五〇万円。七月、大雨・雷雨。台風四回(5号、8・17〜18。12号、9・13〜14。14号、9・18。15号―洞爺丸台風―9・25〜26)県下に大きな被害がある。
一九五五	〃三〇年	宇高連絡船紫雲丸沈没。砂川事件起こる。	一月・二月、度々強風。六月、大雨。五月・六月・八月・九月に雷雨。七月から八月にかけて旱天が続いたが稲は豊作。
一九五六	〃三一年	新農山漁村五か年計画。	一月・六月・十一月・十二月、度々強風が吹く。七月一日、大雨。七月・八月旱天。八月十五日、雷雨。八月・九月に台風三回。
一九五七	〃三二年	南極大陸に昭和基地を設営。	七月、大雨。八月、台風・大雨。九月、台風。十一月、強風。
一九五八	〃三三年	狩野川台風。一万円札発行。	一月、度々強風。三月三十一日、低温(高松で零下三・五度)で農作物の被害大。八月、雷雨・強風・台風。九月、雷雨。姫浜・和田浜・箕浦・花稻海岸の防災工事完成。
一九五九	〃三四年	伊勢湾台風。メートル法実施。	一月、雪が多かった。七月、雷雨・大雨。八・九月、台風。九月二十六日、伊勢湾台風の被害がある。
一九六〇	〃三五年	日米新安全保障条約に調印。チリ地震の被害が発生。	七月、大雨。西讃地方に集中豪雨。二〇〇ミリメートルで被害大。八月、台風三回。高松本駅、大火で焼失。
一九六一	〃三六年	第二室戸台風。農業基本法成立。梅雨前線による豪雨の被害発生。	四月・五月、度々濃霧発生。六月下旬、大雨。七月、雷雨。九月、台風二回。そのうち第二室戸台風で東讃・小豆島の被害大。十月二十五〜二十七日、大雨による被害大。関谷港護岸防浪壁の改修工事竣工。
一九六二	〃三七年	三河島駅で列車衝突事件発生。北海道の十勝岳爆発。	箕浦港2号護岸の復旧工事竣工。六月〜七月、大雨。小豆島に集中豪雨。麦の減収大。夏、早

二、豊浜町災害年表

二、豊浜町災害年表

一九六三	昭和三八年	三井・三池炭鉱ガス爆発。一月、寒波・強風・大雪で各地の被害甚大。	魁で農作物の被害八四億円にのぼる。
一九六四	〃三九年	新潟地方に地震。20号台風。東海道新幹線閉業。	一月、寒波・強風。一月九日・三十一日、大雪。その前後にも降雪多く、農作物だけでも二億五千万円の被害。五月〜六月、長雨・濃霧で夏作の収穫は皆無。八月、雷雨・台風。
一九六五	〃四〇年	山野炭鉱ガス爆発。鹿児島市に大火。23号・24号台風。	二月、大雪。三月十六日、強風(三〇・四メートル)。20号台風が宇和島付近に上陸。三島付近から燧灘を通過。風雨強く、被害大。
一九六六	〃四一年	全日空機墜落。台風24号は関西に、26号は関東に、伊勢湾台風に次ぐ被害を及ぼす。	三月、大雪・雷。23号・24号台風の大雨による被害大。
一九六七	〃四二年	羽田で流血デモ。七月、九州北部に大雨。34号台風。	十二月から一月にかけて長雨続く。
一九六八	〃四三年	日向灘・宇和島沖に地震。岐阜観光バス遭難。10号・16号台風が共に九州地方を襲う。大館市に大火。	県下一帯に豪雪があり、各地に被害がある。山本町に大火。4号台風が四国を南北に通過。
一九六九	〃四四年	三月、大雪。六月、西日本大雨。八月、7号台風が襲来、各地に被害大。	一月二十日、関西地方に一番の寒さ(高松市で零下五・九度)三月十三日、降雪。三月十九日、吹雪。
一九七〇	〃四五年	全日空よど号乗取られる。大阪でガス爆発。2号・4号台風。各種公害が社会問題として大きく取り上げられる。	樹木・作物に大きな被害が出る。十一月六日、雷雨・霰。十二月一日〜三日、寒風吹く。

		れる。八月二十〜二十一日、台風10号の大風雨。九月十五日、東海道から関西に雷雨。九月十九日、秋田県駒ヶ岳噴火。九月二十日、桜島噴火。十月十九日、北海道・東北に初雪・初氷。	
--	--	---	--

(注) 資料は、

- 昭和四十一年「香川県気象災害史」
- 昭和四十二年四月、香川県防災気象連絡会がまとめた「香川県気象史料」
- 昭和四十三年「香川県防災気象要覧」
- を主とし、一九六五(昭四〇)年「わが国の災害誌」、各地の史・誌等を参考にした。

二、豊浜町災害年表